

筑前国志麻郡の韓亭に至り、舟泊まりし
て三日を経ぬ。ここに夜月の光、皎皎に流
照す。奄にこの華に対し、旅情悽愴す。
各心緒を陳べ、聊かに裁る歌六首

三六六八番

大君の 遠の朝廷と 思へれど 日長くしあれば
恋ひにけるかも

三六六九番

旅にあれど 夜は火燈し 居る我を 闇にや妹が
恋ひつつあるらむ

三六七〇番

韓亭 能許の浦波 立たぬ日は あれども家に
恋ひぬ日はなし